

令和5年2月9日

保護者 様

認定こども園専修大学北上幼稚園
園長 小原 栄子

令和4年度学校評価について（お礼とご報告）

立春の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、過日行いました保護者の皆様への学校評価アンケートには、多くの回答（200名中186名回答：回答率93%）ならびに貴重なご意見（記述57件）をいただき、誠にありがとうございました。

つきましては、集計結果から見えてきたことについて、下記のとおりまとめましたのでご報告いたします。

なお、アンケート結果を別紙のとおり集計いたしましたのでご覧ください。

記

集計結果から見えてきたことについて、下のとおりまとめました。

1 「そう思う」「おおむねそう思う」と回答をいただいた項目の割合

- (1) 100% ⑥「様々の行事は、子どもたちの様子や成長が分かり、保育の意義（学びや遊びの大切さなど）を知る機会となっている」
- (1) 100% ⑩「保育者は、すすんであいさつを心がけ、子どもに温かい言葉遣いで接している」
- (1) 100% ⑰「園は、清掃や整理整頓が行き届いている」
- (1) 100% ⑳「家庭では、おはよう、ただいま、お休み、ありがとう等のあいさつを励行している」
- (2) 99.0% ④「園は、外遊びやうんどう教室などを通して楽しく体力作りをしている」
- (2) 99.0% ⑧「子どもは、園の生活を楽しんで通っている」
- (2) 99.0% ⑱「保護者は、園の教育・保育方針や運営方針に関心を持っている」
- (3) 98.9% ⑯「園は、施設設備（保育室・園庭等）や教育環境の充実に努めている」

2 「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答をいただいた項目の割合

- (1) 5.9% ⑫「園での子どもの様子は、行事、参観日、園・学年だよりなどを通して知ることができる」
- (2) 5.4% ㉑「家庭では、ふわふわ・ちくちくことばの理解をして言葉に気をつけている」
- (3) 4.4% ⑱「保護者は子育てについて身近な人に相談している」

3 まとめ

学校関係者評価のアンケートの項目は、昨年度、見直しをかけて24項目にしました。

「そう思う」「おおむねそう思う」と肯定回答した方が、全ての項目で90～100%の高い評価でした。特に「家庭では、おはよう、いただきます、おやすみなさい、ありがとう等の挨拶を励行している」「様々の行事は、子どもたちの様子や成長が分かり、保育の意義（学びや遊びの大切さなど）を知る機会となっている」など4項目で100%でした。

家庭でのしつけがしっかり行われている様子がかがわれます。また、新型コロナウイルス感染症の関係で、行事や保護者会に参加できない時があったにも関わらず、「子どもの成長が見られた」という回答があったことは園として嬉しい限りです。

それぞれの学年に分かれて行事を実施し、保健所の指導や園長会の申し合わせに従って実施しましたが、園児の安全を第一に考えた措置ですのでご理解いただきたいと思います。子どもの成長を親御さんは楽しみにしていると思いますので、今後はインフルエンザと同じ扱いに変わる見込みであり、徐々に本来の行事開催に戻していけるのではと思います。従って、保護者の皆さんの園に来る機会が増えることや園だより、学年だよりで写真を入れるなど工夫を今後取り組んで園の様子をお知らせするようにしていきます。

様々な制限の中で運動会や発表会を保護者の方々に見ていただいたことは良かったと考えております。運動会の時は、保護者さんの拍手のお陰で、子どもたちの意欲が高まり、輝いておりました。また、保護者会様の運動会に対する積極的な活動に感謝しています。

今年度は、どのクラスでも主体的、対話的、深い学び（アクティブラーニング）になる活動を行ってきました。遊びを通して、集中力や真剣さが出てきました。さらに、友だちと息を合わせながら、互いが互いを見守り、力を合わせている姿がありました。友だちとともに深い学びにつながるように、子どもたちの発達に応じた活動を繰り広げております。ふわふわ言葉とちくちく言葉については、今年度の園だより等で取り上げて掲載しました。来年度は、保護者の皆さんに説明し、一緒に話し合う機会を設けたいと考えています。

今、子どもの人権についてテレビやスマホなどで取り沙汰されています。園では全職員に対する「幼児教育に係る人権チェックリスト検査」を実施し、園児の人権に対する理解を深め、人権を守る意識の向上を図っていきたいと思います。また、送迎バスの乗降における人員確認は厳重に行っていますが、今後は、「バス安全装置」を取り付けるなど進めていきたいと思います。

子どもたちの体力向上に外部講師をお願いして4、5歳児にかがやきkids教室を開催しております。昨年も触れましたが、幼児期にもっとも伸びる体力として「調整力」があげられます。調整力とは、平衡性、巧緻性、敏捷性（柔軟性）などをいいます。神経の働きによって、運動中の姿勢を調整してバランスをとったり、運動を機敏に、巧みに行ったりする能力です。調整力が高まると、いろいろな運動やスポーツをじょうずに行うことができるようになります。いろいろな動きを通して体力づくりをしています。小学校に進んだ時にも大いに役に立つ動きを今後も育てていきたいと考えます。

保護者の皆様のご要望やお気付きの点、お子さんの家庭での様子や感謝の言葉等、貴重なご意見・ご感想を頂戴いたしました。これらの結果を次年度構想に生かして参ります。